

IV - 42

仙台城址の歩行空間調査について

東北工業大学 正会員○花 測 健 一
同 同 松 山 正 将
同 同 菊 地 清 文

1. はじめに

仙台城址は仙台駅から西方約2km広瀬川右岸の標高約115mの丘陵性台地に位置し、本丸跡の規模は東西約245m、南北約267mの規模で“天守台”の名で市民に親しまれ、杜の都仙台のシンボルとして仙台を訪れる人は必ず立ち寄る名所である。特に、仙台城址を中心にした約、1.0キロ四方は、藩制時代からの土木遺構や豊かな自然環境が残されており、歴史的、学術的にも貴重な地域となっている。著者らは、これら仙台城址一帯の歴史的景観保全と自然環境にうらうちされた市民生活の安らぎ空間の充実を一つの課題として、地域の特性を多角的に調査・記録する環境測量による『環境地図』作製に取り組んでいる。

本報告は、これらの環境測量資料に基づいて、本丸跡の門跡から大手門跡までを中心とした歩行空間調査について述べるものである。

2. 環境地図作製対象地域の概況

図-1は環境測量対象地域を示したものである。環境地図は詳細な微地形の把握と、国土基本図との整合性等を考慮して縮尺1/250（1図葉範囲は150m×200m）で9図葉を作製した。

図-2は、特に、歩行空間としてのスペースが確保されていない本丸跡の門跡から大手門跡に至る部分の実測図を縮小して示した。この区間には川内旗立線が通っており、交通量は12時間（AM7:00～PM7:00）交通量調査の結果、上下線約、11,000台と多く年々微増の傾向にあり、歩行者にとっても大変困難な区域となっている。

3. 調査結果

今回の調査結果に基づいてこれらの区域を次の3区間に分け、歩行空間の現状とその対策について若干の知見を述べる。

3-1. 本丸跡の門跡-沢の門跡

図-2より、右側にある本丸跡の門東脇路跡には、高さ13m、長さ160m、の苔むした石垣が築城当時の面影を残しているが、石垣の変形に伴って設置された防護フェンスと警報装置は景観を損ねている。しかし、危険を察知し回避のためのもので、石垣修復までは安全性を優先させる対策としては当然と思われる。また、車道の勾配が約、12.6%と3区間で一番急で、左に大きくカーブ（半径約、18m）した所からは、側溝と路肩部分が雨水等により浸食され凹凸が激しく歩行位置としては問題がある。これ等浸食防止の応急処置として、土のうが積まれてあるが、植樹等により整備、整地するべきと思われる。この区間の左側は、石畳の階段が詰の門前から途中まで整備され歩き易いが、続いて沢の門跡へ向かう歩道がなく、反対側に横断する歩行者もあり大変危険な箇所と言える。

3-2. 沢の門跡-寅の門跡

この区間の右側は、樹高20m以上の杉

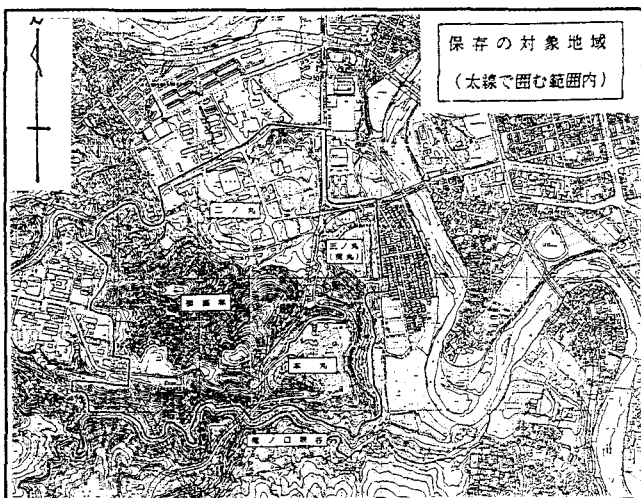


図-1 環境測量対象地域

木立の間をくぐり抜ける様に踏みつけ道がついており、自然の土の感触も楽しめる雰囲気有しており特に、手を加える必要はないと思われる。左側は、蓋のある側溝上を歩行者が利用しているが、車道とのガードレールも無く自動車との接触の危険性が考えられ、注意しなければならない区間である。又、大手門跡とのほぼ中間に位置することから、休憩所的スペースが必要でありその確保も地形状態から可能と判断される。

3-3. 寅の門跡—大手門跡

この区間の右側は、寅の門跡の〔切込みはぎ積石垣〕の部分が側溝に近接して間隔が狭く地面は側溝がわへ急傾斜している注意箇所である。しかし、これを過ぎた大手門跡手前までは、歩道が整備されている。左側にある〔野面積石垣〕は崩壊の危険性があり早急に修復が必要と思われる。また、この石垣を覆い隠す様に満州事变戦勝報告碑等の建造物が荒れ果てたまま放置されており、仙台北城址との関わりもなく景観を損ねており取り壊しも止むを得ないと思われる。この区間は現在歩道はないが地形状態から判断すると植生を壊さず新たな歩行空間の確保が可能と思われる。

この左側一帯は旧中嶋池跡で湿地帯になっており葦が生い茂っているが、仙台北城址の背後地としての御裏林（本沢・深沢）流域の調整池との役割と、仙台北城址の景観価値を高めるためにも中嶋池を復元し、一般に公開されている東北大学理学部附属植物園の一部として水辺豊かな憩いの場として活用することも考えられる。

4. 考察

この様に、本丸跡の門跡から大手門跡の歩行空間整備にふれたのは、1987年からの交通量調査とこの地域の環境測量を通じて、緊急性を要する区域と判断されたからである。もとよりこれは、あくまでも本丸跡の石垣が修復され、道路問題が解決されるまでの次善の対策であることは言うまでもない。

当然の事ながら仙台北城址の歩行空間は本丸、二の丸、三の丸そして追い廻し地区を含め、仙台市の「歴史と文化の散策道」をより拡張し、質的に深め行くルートづくりが必要と考えている。

5. おわりに

環境地図作製及び現況調査測定には、本環境測量研究室研修生：小林 仁、穴戸 香、星 直人、山上雄介、山田孝司君の協力を得ました。改めて謝意を表します。

6. 参考文献：仙台市教育委員会編「仙台北城」昭和42年

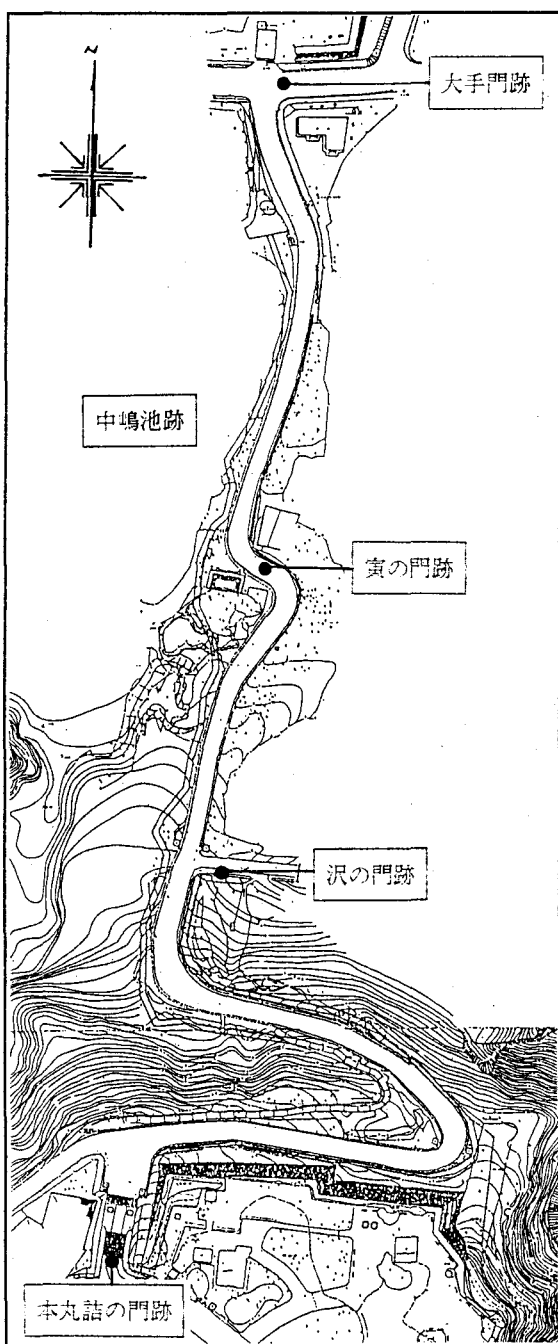


図-2 環境地図（詰の門跡—大手門跡部分）